

早期発見 無駄な検査が

どころか、 病気を作る

人間ドック

「脳ドック」

あなたの寿命

ク」と

ク」が

命を縮めます

医学の進歩は目覚ましい。だが、それは同時に見つける必要のない異常まで発見し、健康な人を病人にしてしまう。本当に長生きする人は、うまく医療から距離を取っているのだ。



検査しても
寿命は
伸びない

「様々な健康診断、人間ドックすべてについて言える重大な事実があります。諸外国には検査を受けた人と受けない人を均等に分けて行われた追跡調査がたくさんあって、それらを調べると検査を受けても受けなくても寿命、総死亡率に差がないか、受けたほうがむしろ寿命が短いという結論が出ているのです」

こう語るのは、新潟大学名誉教授の岡田正彦氏。カナダやヨーロッパの多くの国では「健康診断が寿命を伸ばす」という科学的根拠は一切なく、検査を受けるかどうか、もっと慎重に考えるべきだ」という勧告が多くの学会から出されている。そもそも検査とは、早期に病気を発見・治療し、その病気によって死亡する確

率を下げるためのもの。だが、多くの検査が、その役割を果たしていないということが明らかにになっているのだ。岡田氏が続ける。

「アメリカで行われた面白いアンケートが『米国医師会雑誌』に出ています。健康診断に協力している医師数百人を対象にした調査なのですが、その結果によると9割の医師は『検査自体は必要だが、実際に行う検査項目はわずかなものでいい』と答えているのです」

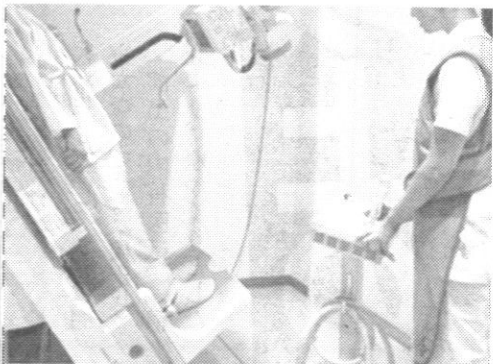
その調査によると48%の医師が血液検査のコレステロールや中性脂肪の検査が必要だと答え、44%の医師が尿検査が必要だと答えている。その他、血糖値、腎臓や肝臓及び甲状腺の機能を調べる血液検査などは必要と見なす医師が多かったものの、レントゲンや心電図は不要だと答えた人が大半を占めた。

現在、日本でも広く行

は「きつとどんな病気も
見つけてくれるに違いない」と信じたくなるとこ
ろだが、健康な人がPET
T-CT検査のみを受け
ることで、がんによる死
亡率が下がるという科学
的な報告はない。

PET-CTにも被曝
のリスクはつきものだし、
むしろ無害な腫瘍を発見
してしまふ過剰診断で、
不要な手術や治療を受け
る可能性だってある。何
も症状がないのに定期的
に高いカネを払ってPET
T-CTを受けるのは、
健康オタクの大金持ちの
道楽みたいなものだ。

現在、世界的に無駄な
検査や治療を見直そうと
いう動きが広まっている。
アメリカで始まった「賢
く選択しよう」(Choosing
Wisely)という運動が
その代表で、日本版の「賢
く選択しよう」運動も、
無駄な検査を減らすよう
に提言している。その筆
頭になるのが「健康な
人が受けるPET-CT



「CEA(大腸がん・胃
がん)やCA19-9(膵
臓がん)などを測ること
が多いですが、値が正
常と異常の間のグレーゾ
ンに入る人が少なくから
ずいます。そういう人が
様々な精密検査を行って
も異常が無いことがほと
んど。しかし不安やスト
レスで病気になる人もい
るので『腫瘍マーカー症
候群』と呼んでいます。
いま流行の遺伝子検査

脳ドックのせいで脳卒中に

こうなると、健康な人
ががんを早期発見するこ
とは、ほとんど不可能と
いうことになるが、なか
にはその効果が科学的に
証明されている検査もあ
る。大腸がんの早期発見
のために行われる「便潜
血反応検査」だ。アメリ
カやイギリスの調査で、
年1回の検査で大腸がん
の死亡率が下がると証明
されており、日本版「賢
く選択しよう」運動も、
その効果を認めている。

過剰診療が原因で、さ
らに深刻な健康被害を招
くケースがある。とくに
症状がない人が脳ドック

も人によつては罪作りに
なる。『あなたが認知症
になる確率は9割』なん
て言われたら、誰だって
不安から本当に病気になる
りますよ。遺伝子検査は
星占いレベルだと思つて
いたほうが気が楽だと思
います」

を受けたときに脳の血管
に異常が見つかった場合
だ。

脳ドックの目的は無症
状のうちに脳動脈瘤を見
つけて、くも膜下出血な
どを減らすことにある
が、検査によつて脳血管
疾患の死亡率が下がる
というデータは存在しな
い。それどころか、無駄
な手術を受けることで半
身不随などの健康障害が
起きるケースが生じてい
るのだ。前出の岡田氏が
語る。

「脳ドックで小さい脳動
脈瘤が見つかった場合、
患者はそれがいつ破裂す
るか分からないという精
神的な不安に苛まれます。
手術を行うか、または
血管に細い管を入れて膨
らんでいいる箇所を治療
するのですが、これは非常
に高度な手技を要する。
下手をすると血管が破れ
たり、血管の内側をこす
ることによつて血の固まり
ができて、その血栓が
飛んで、脳梗塞を起こす
こともあるのです。実際、
治療の後遺症として、脳
梗塞や脳出血がとても多
いことがわかっています」

ところが、実際に手術
を行う医師は、それだけ
危険で難しい手術をする
という覚悟があるとは限
らない。

「医師は自分の技術に酔
いしれて、冷静に判断で
きない。うまくいった手
術だけ成功体験として記
憶に残りますが、失敗し
た場合は自分のせいでは
なくて患者の血管の形が
悪かったとか、たまたま
薬が合わなかったとか、
理屈をつけ、例外として

われている肺のレントゲ
ン検査は意味のない検査
の典型である。

「胸部X線検査で肺がん
は見つけられないという
ことは前から言われて
いて、科学的にも明らか
です。もともとあの検査
は結核を見つけるための
検査だったのですが、結
核患者が減つて必要な
なつてしまった。しかし
それでは放射線技師たち
の仕事がなくなるとい
うことで、肺がん検診に
りかえてしまおうとなつ
たのです」(医療ジャーナ
リスト田辺功氏)

健康診断や人間ドック
を受ける人は誰もが、が
んのような怖い病気をい
ち早く見つけてもらおう
と思つているはずだ。し
かし、現実には病院や医
療界の都合で行われてい
る意味のない、それどこ
ろか危険に満ちた検査が
まかり通つている。

例えば乳がんの検診だ。
武蔵国分寺公園クリニッ
クの院長、名郷直樹氏が

高いカネを払って被曝

無駄で意味がない胃が
んの検査も横行している。
バリウムを飲んで行う二
重造影法検査だ。都内の
民間病院に勤める内科医
が語る。

「健康診断のシーズンに

なると日に何百枚もレン
トゲン写真を見るのが、
若い頃の私の仕事でした。
正直言つて、ほとんど何
も見えないですよ。先輩
からも『何も考えなくて
いいから、1秒で適当に

「本当は最初から内視鏡
の検査をしたほうがよい
のですが、内視鏡は時間
がかかるんです。一人の
患者さんにつき20分〜30
分くらいかかります。こ
れでは1日で診られる人

大がかりな装置で、費
用もかかるので、受診者

もし検診を受けなければ
「健康診断のシーズンに

推奨しないと述べている。

「本当は最初から内視鏡
の検査をしたほうがよい
のですが、内視鏡は時間
がかかるんです。一人の
患者さんにつき20分〜30
分くらいかかります。こ
れでは1日で診られる人

大がかりな装置で、費
用もかかるので、受診者

語らる。
「しばしば乳がん検診を
受けましょうというキャ
ンペーンが大々的に行わ
れていますが、乳がん死
亡が減るといふ論文があ
る一方、検診結果を分析
すると他のがんによる死
亡が増えるというデータ
もあります」

それどころか、『過剰
診断』という弊害も生じ
ている。患者の生死には
無関係な早期乳がんが見
つかるケースです。実際、
12年には、乳がん検診に
よつて診断される乳がん
の30%は過剰診断である
という論文が報告されて
います」

ば、乳がんを診断されて
大きな精神的ストレスを
受ける必要もなかったは
ずだ。なかには不要な手
術で乳房を取つてしまつ
たり、副作用の強い抗が
ん剤を飲まされる人もい
ただろう。

実際、米国では予防医療
作業部会が、マンモグラ
フィーによる乳がん検診
は40代女性にとつて利益
より不利益が大きいの
で推奨しないと述べている。

判断すればいい」と教わ
りました。

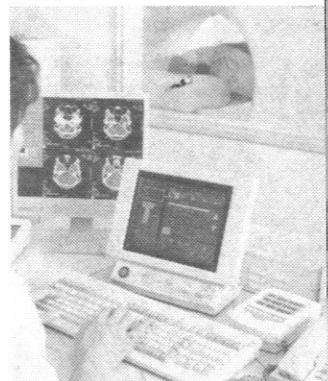
それでも3〜5%くら
いの人は再検査に回さな
ければならないから、適
当に選んで『要精検』と
ハンコを押す。それで内
視鏡をやつて、何もなか
つたら『よかったですね』
となるし、万が一何か見
つかったら『検査をして
よかったですね』となるん
です。しかし、ほとんどの
人は放射線被曝するだけ
で何のメリットもない。被
曝量は胸部レントゲン検
査の比ではないですから
ね」

これでは何のために苦
勞してバリウムを飲まさ
れるのかわからない。な
ぜいまだにこのような意
味のない検査が行われて
いるのか。

数に限られてくる。
一方、放射線技師が流
れ作業で胃透視をやれば
1日で30人は処理できる。
健診機関としてはバリウ
ム検診のほうが楽に儲か
るんです。

また、内視鏡検査は医
師が行うのですが、バリ
ウム検査は放射線技師が
行う。会社などの大規模
な健診だと放射線技師の
ほうが数を揃えやすいと
いう都合もあります」(前
出の内科医)

最近ではPET-CT
という最新の検査法で、
がんの早期発見を目指す
試みもある。PETは陽
電子断層撮影法、CTは
コンピュータ断層撮影法
のことで、この2つの技
術を組み合わせ、30分ほ
ど横になっていいる間に全
身の状態が調べられると
いうものだ。保険が利か
ないが、大きな病院に行
けば1回15万円ほどで受
けられる。



処理してしまう。しかし科学的なデータに基づけば、健康な人が脳ドックを受診することで健康被害が生じていることは明らかなのです」(岡田氏)

前出の内科医は、「検査より、ゆつくりとした

問診が健康診断の本筋だと語る。

「でも時間をかけて患者さんの話を聞いてもおカネにはなりません。問診

はそこそこのしてMRIに回したほうが、病院はずっと儲かるのです」自分の健康状態を知るための検診ならいいが、

医師を儲けさせるための検診で、しかも健康を害する可能性であるのなら、受けないほうがいいに決まっている。

80歳以上の元気な人に聞きました 「あなたは飲み続けている薬がありますか？」

長生きの人はやっぱり薬を飲んでいなかった！

薬をやめたら眩暈が治った

「3年ほど前、検査のため病院に行ったところ『血中のコレステロール値が高いので、下げる薬を飲みましょう』と医者から言われ、リバロ(ス

タチン系薬)と呼ばれる薬を処方されました。

ところが1日1錠を5日間飲んだ時点で、体に異変が起こった。突然、太ももに激痛が走ったの

です。その後、痛みはふくらはぎ、肩、腰、お尻と次々に広がっていきました。あまりの痛さに大げさではなく、死ぬ覚悟をしたほどでした」

野村隆志さん(元会社員、仮名、以下同)。

野村さんは、同じ病院内の麻酔科でモルヒネ系の強い痛み止めを処方してもらい、なんとか痛みは治まった。

薬の副作用で筋肉が溶けてしまう『横紋筋融解症』の可能性が高いとのことでした。2週間くらいで激痛は治まったものの、筋肉が溶けてしまったわけですから、座っている

だけで大変でした。お尻の筋肉がないので、15分くらい座っているとお尻が痛くなるんです。

また、大好きだったゴルフを再開しようと思っ

て練習場に行ったのですが、以前の半分もボールが飛ばない。体の力がなくなったことを実感し、

呆然としました。

「75歳から5年間降圧剤

を過ごしている。

「医者から糖尿病と診断され、糖尿病薬のアマリールと悪玉コレステロールを減らすクレストール

を5年以上飲んでいました。しかし一向に症状は改善されず、『このままだとインスリン注射をしなければならぬ』と医師から言われたので、一念発起し、食生活など生活習慣を改めました。結果、コレステロールの値が下がり、血糖値も正常値近くにまで下がったのです。

今では薬を飲まなくても元気に畑仕事もできるようなりました。やっぱり薬など飲まないで元気なまま死にたいよ」

薬より自然治癒力を大事に

それ以来、私は薬を飲むのをやめました。その後、スポーツクラブで水中ウォーキングなどをする

ことで、少しずつ筋力を戻しましたが、元のレベルになるのに1年もかかりましたね。たった5錠しか飲んでいない薬の副作用がこれほど長く続くと

は、90歳になる現在も元気そのもの。何か飲み続けている薬はあるか尋ねると「何も飲んでない」と言う。

「会社員時代に高血圧(上が140を超え、下が90以下)だと診断され、降圧剤を処方されたけど、大騒ぎをするほどのこと

もないと思って、1週間ほど飲んだ後はすべて捨ててしまった。それ以来、風邪をひいても薬は一切飲んでない。一度薬に頼ると、飲み続けることになるからね。

今、健康のために心がけていることは運動と食事かな。食事はよく噛むこと。一口で50回は噛むようにしている。おかげ

現在、野村さんは趣味のゴルフも再開し、健康な毎日を送っている。

今回本誌が、80歳以上の元気な高齢者を対象に取材した結果、「現在薬

を服用せず健康な毎日

を過ごしている。

「日本人は医者や薬が大好きなんです。病院に行くと『何かいい薬を出してください』と申し

80歳以上の人に聞いた「現在飲んでいる薬」「やめた薬」

名前／年齢 居住地／職業	手術歴	病気	現在 飲んでいる薬	過去に飲んでいたが やめた薬	健康状況
野村隆志さん (80歳) 東京都／元会社員	あり	高コレステロール	なし	リバロ	リバロを飲んでから突然、太ももや首など体中が痛みだした。この薬の副作用である「横紋筋融解症」(筋肉が溶ける病気)と判明。その苦い体験以来、薬は一切飲んでいない
村田幸三さん (88歳) 千葉県／農業	あり	糖尿病	なし	メルビン アマリール	80歳の時にメルビンを服用したが、こむらがえりが突然出始め、不眠気味で食欲も低下した。その後アマリールに変えたが改善されず。薬をやめてから2年以上経つが体調はいい
米山和子さん (87歳) 埼玉県／元パート社員	なし	尿失禁	なし	ベシケア	この薬を飲むと気持ちが悪くなり、物忘れが激しくなった。便秘にもなり、娘に言われ徐々に飲まなくなった。今は水分調節と塩分を控えた食事の問題なく健康に過ごしている
小田勝次さん (91歳) 岐阜県／自営業	なし	骨粗鬆症	なし	ボナロン	80代の頃からボナロンを飲んでいて、口内炎やじん麻疹が出るため、医師に相談して飲むのをやめた。薬を飲んで別の病気になるのも嫌なので、以来、基本的に薬は飲まない
高田昭二さん (85歳) 大阪府／元公務員	なし	高血圧	なし	オルメテック	2年前から飲み始めたが、動悸や眩暈が起きたので飲むのをやめた。血圧は上が140位だったので、漬物など塩辛いものを減らしている。よほどひどくならない限り薬は飲みたくない
山下倫子さん (90歳) 東京都／専業主婦	あり	認知症	なし	アリセプト	「82歳の時にこの薬を飲んでから急に母の精神状態が不安定になり、家の中で暴れるようになった。思い切って薬をやめたところ、現在は落ち着いている」(山下さんの娘)
佐藤清さん (87歳) 神奈川県／元会社員	なし	高血圧	ディオバン ノルバスク	なし	血圧は上が190台、下が80台ときわめて不安定なためディオバンとノルバスクを毎日服用。飲むと気持ちが悪くなり嘔吐することもあるが、血圧が心配で今も飲み続けている
福田実さん (83歳) 三重県／元大工	なし	脳梗塞	セロクラール錠	なし	よく転倒するようになり病院を受診。小さな脳梗塞を発症していたことが分かった。今は脳の血管を広げるセロクラールを飲んでいる。薬の服用については自分で判断している

※仮名含む。メルビンは11年に販売中止

出る人が非常に多い。医師が「まずは生活習慣を改善しましょう」と言っても、手取り早い解決策を薬に求めてしまう。だったらと医者も安易に薬を出してしまうのです。でも薬というのは、いわゆる対症療法でしかない。血圧が高ければ下げる薬を飲む、すると今度は胃が荒れるから胃薬、便秘になるから緩下剤といった具合に、多量の薬を処方されている患者が非常に多い。忘れてはならないのは薬には必ず副作用があること。「医師の言う通りにやっていたら健康になる」という幻想をもっている人がいますが、自分の身体を治すのは医者でも薬でもなく自分自身なんです」

大手の老人ホームで多くの高齢者を世話する介護ヘルパーは、こんな実情を明かす。「施設にいる多くの高齢者が知らず知らずのうち

に薬依存症になっていきます。寝られないからと安易に処方された睡眠導入薬を飲み続ければ、次第

に効果が薄れてきます。そうなる強いものへ強いのへと移行していく。まさに悪循環です。1時間置きに「もっと薬ちょう

うだい」と訴える方もいます。そういう方には、主治医と家族の了承を得て、お菓子のラムネを偽薬と

して与えるようにしています。するとスヤスヤとお休みになるんです。「プラシーボ効果」ですね。こうして薬を減らすことで、体調がよくなる方は

少なくありません」薬から自由になるために、そして80過ぎて健康であるために、今一度、自分の身体とよく相談してほしい。

降圧剤を飲んだら脳梗塞に 胃酸過多の薬で骨粗鬆症 脳動脈瘤の手術で植物状態 椎間板ヘルニアの手術で歩けなくなった ほか

いまからでも考え直したほうがいい その薬、その手術が あなたを寝たきりにする

不整脈のワーファリンは危険

都内に住む30代女性が語る。

「父は数年前から高血圧になり、医者から処方された降圧剤を真面目に飲

み続けました。血圧が下がって、最初は喜んでいましたが、少しずつ様子が変わっていききました。以前の父は休日はいつも

仕事仲間とのゴルフだったのに、段々と自宅にこもり一人で過ごすことが多くなったのです。そして半年前、急に脳梗塞を患い寝たきりに。私たちの生活は一変しま

した。母は介護疲れで精神的にも肉体的にも限界です。私自身も仕事で一杯の上、家でも介護のサポートなどで疲弊し、休まる暇がありません」ミカルデイスなどの日

本で主に処方されているARB(アンジオテンシンII受容体拮抗薬)と呼ばれる降圧剤は、副作用が弱いからと安易に処方している医者が多い。患

者も安心してきつて複数の降圧剤を並行して服用している場合もあるが、こうした甘い認識が冒頭のように「寝たきり」を招き、患者本人やその家族を悲劇に巻き込みかねない。

事実、血圧を下げるすぎるとは危険だ。東海大学名誉教授の大橋陽一氏もこう警鐘を鳴らす。

「過度な低血圧は危険です。血圧が低いということは、血液を送り出す力が弱いということです。脳に血液がうまくまわらなくなると、めまいや貧血になる恐れがあります。さらには血流が乱れることにより血栓ができ、脳梗塞を引き起こす可能性も高まります」

脳梗塞の症状には高次脳機能障害や手足、顔半分の麻痺がある。こうした脳梗塞などの「脳血管疾患」を患ってしまい、寝たきりになるケースは実に多い。厚生労働省の調査によると寝たきり患

者の3割以上が脳血管疾患が原因であり、最も多いことがわかっていて、脳梗塞と同じく脳血管疾患である脳出血もまた、寝たきりの原因となりうる。新潟大学名誉教授の岡田正彦氏が指摘する。

「不整脈がある人によく処方されるのがワーファリンです。この薬は、副作用として脳出血が起これというデータがあります。特に高齢者は脳出血や消化管出血で重症になる方がすごく多い。私にとっては処方したくない薬の筆頭ですね」

ネキシウムやタケプロンなどの胃酸過多や逆流性食道炎の治療に使われるPPIと呼ばれる胃薬にも、寝たきりのリスクが潜んでいる。

「PPIは胃酸を抑える薬ですが、確かに効きます。胃酸過多や逆流性食道炎の患者さんにこれを出すと収まるのです。ところが、長く飲み続けるとうるさくなるかという

ことが外国で調査されていて、1年以上飲み続けると骨折する確率が上がるのとがわかっていて、4年飲み続けると5割を超え患者の骨が弱くなるというデータがあり、予想外の副作用がある薬なのです。

一時的に(1〜2ヵ月)飲むならともかく、これを安全と信じて何年も飲み続けている人がとても多いのです。その人たちは、骨粗鬆症が進行して

いることを知らない」(前出の岡田氏)

骨粗鬆症は骨密度の低下、または骨質の劣化により骨強度が低下し、骨折しやすくなる状態を招く。くしゃみや咳をしただけで肋骨を骨折、ということもあるのだ。特に高齢者であれば、骨折によって入院を強いられ、ベッドに釘付けにされる時間が増えれば増えるほど、身体機能が低下し、寝たきりのリスクが増える。

その結果、神経細胞に障害が発生し、認知機能を低下させることすらある。認知症は終末期になると脳萎縮が進行して、話が通じなくなり、食事もうるさなくなる。やがて寝たきりになる。

糖値が正常の範囲を超えて下がり過ぎてしまうことがある。

「昨年、母に脳動脈瘤が見つかりました。未破裂で小さなものだったため、手術を受けさせるか少し迷いましたが、医者からはくも膜下出血を防ぐため、瘤が小さくても予防手術をしたほうがよいと勧められ、手術を受けました。結果、神経を損傷してしまい、上手くいきませんでした。現在は意識が戻らず、私たちの言葉も理解できなくなり、身体機能も麻痺して植物状態になってしまいました。元氣だった母がこんな姿になってしまい、信じられないし信じたくもありません」

脳動脈瘤の手術で患部以外の正常な血管や神経に触れてしまった場合、損傷具合によっては脳に重度の後遺症を残してしまう危険性がある。確かに脳動脈瘤にはくも膜下出血の恐れがあるが、そのすべてが破裂するわけではなく、大きさや形、瘤ができた場所や治療方法も異なる。そのため、手術をせずに経過観察が推奨されることもある。後遺症で寝たきりになるリスクを考えると、手術を受けるかどうかの判断は慎重にすべきだろう。

椎間板ヘルニアなど、腰痛の手術も寝たきりのリスクを伴う。医師でジャーナリストの富家孝氏はこう語る。

「私はヘルニアによる腰痛に長年、悩まされてきました。痛くて歩くのも

クレストールで呼吸困難に

クレストールなどスタチン系の薬は高脂血症の患者に処方され、脳血管障害のリスクを抑制する効果を持つが、横紋筋融解症という副作用がある。これは、筋肉の一部が溶けだし、筋肉痛や手足のしびれを引き起こす。前出の大橋氏はこう言う。

「横紋筋融解症により、運動筋が溶け、呼吸困難になり、寝たきりになることもあります」

糖尿病薬にも注意が必要だ。代表的な糖尿病薬にはアマリール、ダオニルなどのSU剤やジャヌビア、エクアなどのDPP-4阻害薬がある。これらはインスリンの分泌を促進させる効果があり、広く処方されているものの、副作用として血

糖値が正常の範囲を超えて下がり過ぎてしまうことがある。

「昨年、母に脳動脈瘤が見つかりました。未破裂で小さなものだったため、手術を受けさせるか少し迷いましたが、医者からはくも膜下出血を防ぐため、瘤が小さくても予防手術をしたほうがよいと勧められ、手術を受けました。結果、神経を損傷してしまい、上手くいきませんでした。現在は意識が戻らず、私たちの言葉も理解できなくなり、身体機能も麻痺して植物状態になってしまいました。元氣だった母がこんな姿になってしまい、信じられないし信じたくもありません」

脳動脈瘤の手術で患部以外の正常な血管や神経に触れてしまった場合、損傷具合によっては脳に重度の後遺症を残してしまう危険性がある。確かに脳動脈瘤にはくも膜下出血の恐れがあるが、そのすべてが破裂するわけではなく、大きさや形、瘤ができた場所や治療方法も異なる。そのため、手術をせずに経過観察が推奨されることもある。後遺症で寝たきりになるリスクを考えると、手術を受けるかどうかの判断は慎重にすべきだろう。

椎間板ヘルニアなど、腰痛の手術も寝たきりのリスクを伴う。医師でジャーナリストの富家孝氏はこう語る。

「私はヘルニアによる腰痛に長年、悩まされてきました。痛くて歩くのも

「寝たきり」になる危険が高い薬

病名・症状	薬名	「寝たきり」の原因
高血圧	ミカルディス → コバシル など	脳梗塞 ミカルディスなどの降圧剤は血圧を下げることで低血圧があり、めまいや失神を起こすリスクがある。低血圧で血流が弱まり、血管が狭くなった部分より先に血液が流れなくなった結果、脳梗塞になることも
高脂血症・高コレステロール血症	クレストール → リピトール など	横紋筋融解症 クレストールなどのスタチン系の薬は脳血管障害の発症リスクを下げる効果がある一方、副作用として横紋筋融解症がある。筋肉の細胞の一部が溶けてしまい、手足の自由を奪い、腎機能にも障害を起こす
胃酸過多	ネキシウム → タケプロン など	骨粗鬆症 胃酸を抑える薬として胃酸過多や逆流性食道炎に効果を発揮。しかし、1年以上継続して服用すると骨が弱くなり、骨粗鬆症になるリスクが高まる。海外で行われた大規模な調査研究で判明している
糖尿病	アマリール → ジャヌビア など	認知症 SU剤やDPP-4阻害薬などはインスリンの分泌を促進させる薬で広く処方されているが、血糖値が正常の範囲を超えて下がり過ぎることがある。その結果、神経細胞に障害が発生し、認知機能を低下させる
不整脈	ワーファリン	脳出血 ビタミンKを抑制することで血液の凝固を防ぎ、心筋梗塞の予防になるとされる。不整脈などの心房細動の場合に多く処方されているが、副作用として脳出血や消化管出血が増え、重症になる患者もいる
生理痛	ルナベル → トリキュラー など	血栓症 生理痛や月経過多などを改善する一方で血栓症のリスクが存在する。足の突然の痛み、むくみが兆候としてあらわれる。服用を続けると視力障害や失神、意識障害といった重い疾患を引き起こす可能性も

「寝たきり」になる危険が高い手術

病名・症状	手術方法	「寝たきり」の原因
椎間板ヘルニア	腰部の皮膚を5cmほど縦に切開して、ヘルニアを直接切除し神経の圧迫を取り除く	下半身麻痺 手術の際、神経を傷つけてしまう可能性がある。手術前よりも症状が悪化し、痛み、しびれが加えて強くなってしまうことや、下半身に麻痺が残る危険性さえある
食道がん	がんを含め食道を部分的に切除。胃の一部を切り、管状にし、切除した部分を再建する	肺炎 術後、食べ物などが誤って喉頭と気管に入ってしまう誤嚥という症状が起き、肺炎にもつながる。誤嚥性の肺炎は絶食管理下で経管栄養が施され、ひどく衰弱することもある
変形性股関節症	皮膚を切開後、股関節から骨の損傷している面を取り除き、人工関節を固定する	細菌感染 人工関節は異物のため、細菌感染が起これやすい。感染すると腫れ、膿が出て治りにくく、人工関節を抜去しなければならなくなると、術前より悪化して歩けなくなる
脳動脈瘤	脳動脈瘤の根もと部分をクリップではさみ、瘤に血液が入らないようにして破裂を防止	神経後遺症 脳動脈瘤クリッピング術は、脳あるいは神経などを損傷してしまうことがある。意識障害、運動障害、高次脳機能障害、視野障害などの神経後遺症を生じる可能性がある

痺して植物状態になってしまいました。元氣だった母がこんな姿になってしまい、信じられないし信じたくもありません」

脳動脈瘤の手術で患部以外の正常な血管や神経に触れてしまった場合、損傷具合によっては脳に重度の後遺症を残してしまう危険性がある。確かに脳動脈瘤にはくも膜下出血の恐れがあるが、そのすべてが破裂するわけではなく、大きさや形、瘤ができた場所や治療方法も異なる。そのため、手術をせずに経過観察が推奨されることもある。後遺症で寝たきりになるリスクを考えると、手術を受けるかどうかの判断は慎重にすべきだろう。

椎間板ヘルニアなど、腰痛の手術も寝たきりのリスクを伴う。医師でジャーナリストの富家孝氏はこう語る。

「私はヘルニアによる腰痛に長年、悩まされてきました。痛くて歩くのも

ままならない状態でした。が手術はしませんでした。腰の手術は成功率が低く、症状がさらに悪化する恐れ

れがあるからです」ヘルニアの手術は位置や症状に合わせて方法が異なり、危険度も違う。

「特にラブ法と呼ばれる背中を大きく切開し、肉眼で見ながら神経の圧迫を取り除く手術は神経を傷つけてしまう可能性が

あり、寝たきりになる危険が見過ごせません」整形外科医
あのときあの薬を飲まなければ、あの手術を受

けなければ寝たきりにならなかったかもしれない。そう後悔しないために、もう一度そのリスクについて、立ち止まってよく考えるべきだろう。

手術も怖いが、実はその前がいちばん怖い

知れば知るほど怖くなる「全身麻酔」 実は「局所麻酔」もこんなに危ない

物が食べられなくなった

埼玉県に暮らす30代の女性は、麻酔に対してこんな「トラウマ」を持っている。

「1年前、虫歯の治療を受けるのに歯科医院で下顎に局所麻酔を打ちました。治療自体は無事に終わったのですが、数日経っても、下唇や舌の辺り

にビリビリとした痺れが続いていたんです。

その後、痺れは取れるどころかひどくなっていきました。ずっと違和感が付きまとうようになった。それに伴って口もうまく動かせなくなり、物を食べるとき、口の端から食べ物や飲み物をこぼしてし

まうようになりました」

彼女が、治療を受けた歯科医に相談すると、その歯科医は、

「麻酔で注射をした際に神経を傷つけたのかもしれない。歯の治療では時折あるんです」と、悪びれずに話した

という。痺れが麻酔のせいであることは認めたが、謝罪はなかった。女性が

続ける。

「事前にそんなことは説明されていなかったから、医師に不満はあります。でも相手は専門家ですから直接は伝えづらくて。

結局、いまま症状は改善しておらず、痺れは続いています。友人と食事にいくのも尻込みするようになりました」

本誌はこれまで何度も全身麻酔の危険性について指摘してきた。全身麻酔は、どういう仕組みで人の意識を消失させるのか（作用機序）さえ明らかになつておらず、副作用についても、研究が十分ではない状況だ。

つい1年ほど前、「ハロタン」という全身麻酔

薬が販売中止となったが、この麻酔薬にも副作用が報告されていた。ベテラン麻酔科医が解説する。

「1950年代から使用されている薬ですが、肝障害の副作用を引き起こすことが知られていました。何度でも使った患者が死亡した例もあり、30年前の80年代に、厚生省（当時）からメーカーに注意が出されました。

今回の販売中止の理由は「諸般の事情」とされていますが、副作用のリスクに加え、患者の覚醒のタイミングの調節が難しいことが原因だといわれています」

しかも、これだけの副作用を持つ「劇薬」を、素人に毛が生えたような研修医が患者に使用している場合も少なくない。知れば知るほど怖くなる全身麻酔だが、その一方で局所麻酔にリスクがないかといえば、決してそんなことはない。冒頭の女性のように、局所麻

数mmズレたら命にかかわる

実際、アナフィラキシーショックや局所麻酔薬の「中毒症状」は決して他人事とはいえない。前出の麻酔科医が言う。

「局所麻酔中毒は、血中の薬の濃度が上がりすぎて発症します。けいれんや急激な血圧の低下、ひどい場合には心停止を引き起こし、死に至るケースもあるのです。とくに肝臓が弱っている人、高齢者は危険です。

こんな事例がありました。60代の体の小さな女性

識がある中での麻酔で、異変が起きて、自覚ができるから大丈夫」と油断して、十分な麻酔設備が整っていない施設で手術をしがちですが、そういう場所では、アナフィラキシーショックなどのアレルギー症状や、局所麻酔中毒といったリスクに十分に対処できません」

たのです。話しかけても、まったく反応しなくなっていました。

その後、すぐに異変に気づいて全身麻酔に切り替えたから症状が回復したものの、少しでも対処が遅れたら命にかかわる事態だったと思います」

埼玉では02年、歯の治療のために局所麻酔を受けた4歳の女の子が死亡した。医師がアレルギー症状に気づかず放置し、女の子は呼吸困難で命を絶たれたのだ。

患者さんもあります」（前出の麻酔科医）

だが、これだけ高度な技術であるにもかかわらず、麻酔を取り巻く医療体制は十分とは言えない状況だ。THE CLINIC名古屋院長の福田越氏が言う。

「基本的に大きな病院でも、麻酔医は足りていないところが多い。ひとりの麻酔医が同時に2〜3の手術を見ている状態が放置されている医院もあります。人が足りないから仕事が集まり、睡眠不足で注意散漫になつて麻酔医も少なくありません。本来なら、もっと麻酔医を充実させ、その重要性が周知されてしかるべきなのですが」

これまで手術自体のリスクの陰に隠れ、その危険性が軽んじられてきた麻酔。全身麻酔はもとより、局所麻酔であっても、「自分は大丈夫」と甘く考えるのは危険きわまりないのだ。